

DISASTER MANAGEMENT NEWS



2025

No.112

ぼうさい

不屈の大地 Build Back Betterの軌跡

平成7年(1995年)

阪神・淡路大震災からの復興

特集

阪神・淡路大震災から30年

～教訓の伝承と防災まちづくり～



内閣府（防災担当）

Cabinet Office, Government of Japan



平成7年（1995年） 阪神・淡路大震災からの 復興

平成7年（1995年）1月17日に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）では、被害が兵庫県だけでなく、近隣の府県も含めた広範囲に及びました。

大阪湾に注ぐ淀川では、下流域の堤防に被害が集中しました。中でも左岸下流域の西島^{とりしま}（大阪市此花区）では、基礎地盤の液状化等により堤防が2kmに渡り最大3m沈下する事態に見舞われました。沈下後の堤防は、堤内地の地盤高と同程度の高さになってしまい、かろうじて海水面よりも高かったことから、浸水することこそなかったものの、一つ間違えば、さらなる惨事に見舞われた可能性もありました。

被害を受けて、国土交通省では、液状化対策として地盤改良を施したうえで、洪水にも強い高規格堤防

（スーパー堤防）構造として復旧させることとしました。

スーパー堤防は、堤防の市街地側にも盛土をすることで、幅を広げて堤内地側を緩やかな傾斜にした台地状の構造です。このため簡単に破堤することがなく、元々の堤防よりも、都市を水害から守ることができます。

現在スーパー堤防上には地上40階のタワー棟を含むUR都市機構等の集合住宅が整備されており、公園と一体となった水辺空間を実現しています。



▲震災で沈下・崩壊した堤防（国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所提供）



▲スーパー堤防が整備された現在の西島（令和7年（2025年）1月撮影）



▲堤内地側の緩やかな傾斜（令和7年（2025年）1月撮影）

西島のスーパー堤防からほど近い場所に伝法漁港があります。ここはかつての伝法川（旧中津川）の河口に当たる部分で、江戸中期までは、大阪の港として栄えていました。貞享元年（1684年）に安治川が開削されると船の往来が減り、明治43年（1910年）に、現在の淀川が開削され、そこに流入する形となりました。さらに高潮の侵入路になることから、昭和26年（1951年）に埋め立てが始まり、現在の漁港が残りしました。昭和39年（1964年）には伝法水門が設けられ、淀川との間を隔てています。



▲伝法漁港
（令和7年（2025年）1月撮影）

CONTENTS

不屈の大地 Build Back Betterの軌跡 「阪神・淡路大震災からの復興」	1
特集 阪神・淡路大震災から30年～教訓の伝承と防災まちづくり～	3
防災の動き	
・内閣府（防災担当）防災計画担当 「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム」（防テクPF） ～第9・10回マッチングセミナーを埼玉県さいたま市・愛知県名古屋市で開催！～	7
・総務省行政評価局行政相談企画課 令和6年度における総務省の特別行政相談活動	8
・東北経済産業局地域経済部情報政策・半導体戦略室情報企画係長 今田祥平 災害時炊き出しネットワークの組成とアプリ開発について	9
・国土交通省不動産・建設経済局地価調査課 ご存じでしたか？不動産鑑定士が被災地の住家被害認定調査を支援します！	11
・国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課 土砂災害防止対策推進検討会について	13
・国土交通省都市局国際・デジタル政策課デジタル情報活用推進室 3D都市モデルを活用した地区防災計画の作成（Project PLATEAU）	15
・静岡県伊東市危機対策課 伊豆東部火山群・伊東市広域避難計画の策定	17
・愛知県西尾市危機管理課 鈴木徹 西尾市上羽角町の地区防災計画づくり	19
・熊本県上天草市危機管理防災課 令和6年度上天草市総合防災訓練を通じて得たもの	21
・長崎県島原市市民安全課危機管理専門員 吉岡伸作 島原市安中地区における地区防災計画づくり	23
・長崎県平戸市総務課危機管理班 君が地域の防災支援者となるために（災害ボランティア若年人材育成プログラム事業）	25
防災リーダーと地域の輪 第56回	26
・兵庫県神戸市港島地区防災対策委員会 高柳章二会長 地区の11のマンションを束ねる地区防災計画の実現	

表紙写真

淀川左岸下流の西島に整備されたスーパー堤防。阪神・淡路大震災での液状化による沈下を経験し、洪水にも強い堤防として生まれ変わるとともに、水辺の眺望を最大限に活かしたウォーターフロント型の集合住宅が整備されています(令和7年(2025年)1月撮影)。

